

データベースによる文献調査

～効率的な文献の探し方～

文献のタイプと調査過程によってデータベースを使い分ける

1. 文献調査の過程と使うデータベースの関係

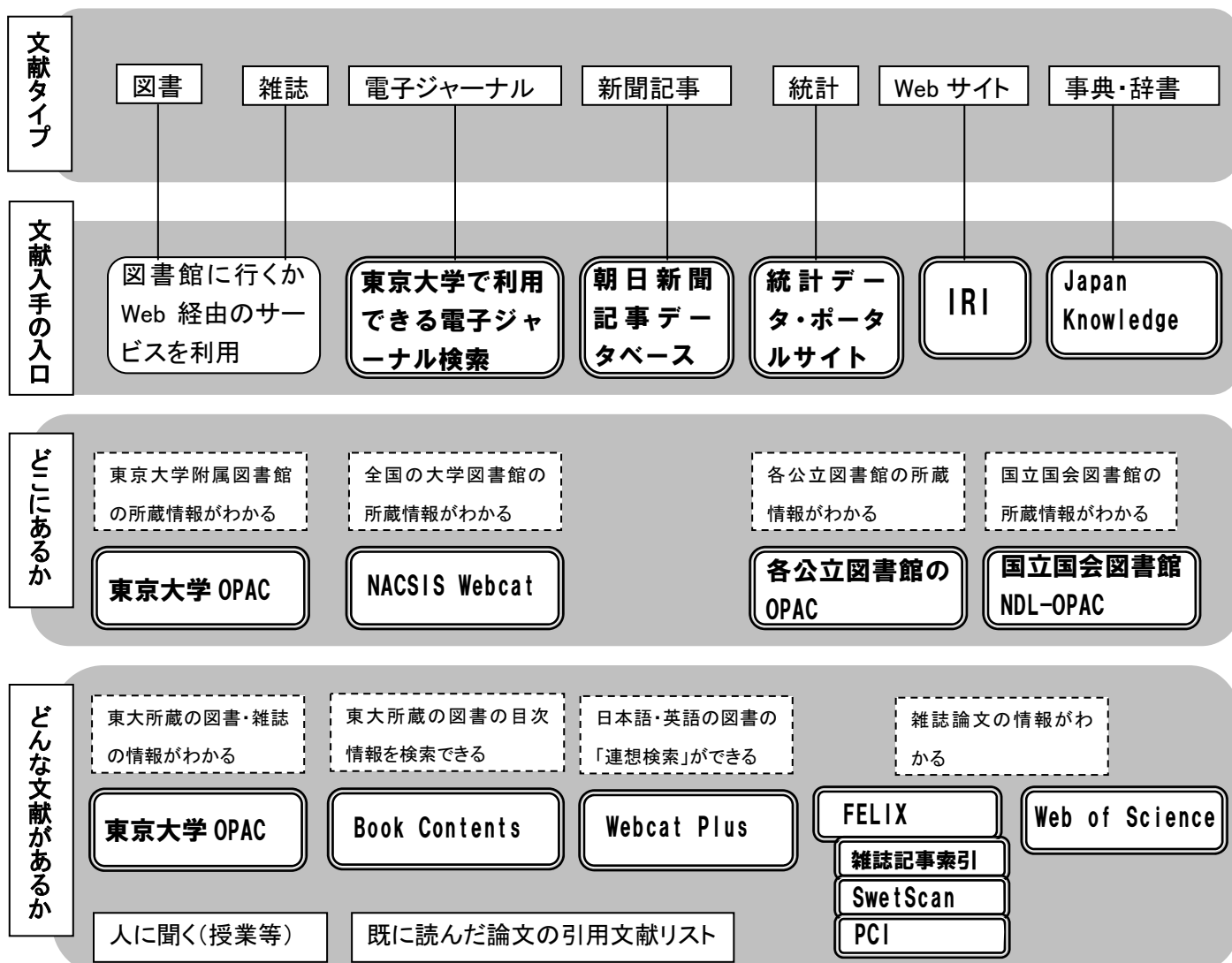
文献には、図書、雑誌(論文)、新聞記事、統計等、いろいろなタイプがあります。

Web で見られる電子的な情報であれば、それぞれに文献入手の入口となるデータベースで探し、そのままパソコンの画面上で見ます。現物を見る場合は図書館に行って入手します。

図書館の膨大な蔵書の中から効率的に目的の文献を探すには、「どこにあるか」がわかるデータベースを使います。また、読みたい文献が確定していない場合は、「どんな文献があるか」がわかるデータベースでまず調査し、それから、その文献が「どこにあるか」を調べます。

このように、文献のタイプと調査過程によって、データベースを使い分けることが必要です。データベースによっては、他のデータベースにリンクして次のステップに進めるものもあります。

※以下の図にあるデータベースは本日の講習会で扱うもののみです(→その他は付録参照)。



適切な検索結果が得られるように検索方法を工夫する

2. 検索語の選び方と検索式の立て方

適切な検索語を選べば必要な文献に近づく

検索語の選び方にはコツがあります。

- Point 1 思いつくことばで検索し、検索結果の中から使えそうなキーワードを見つける
- Point 2 複合語は1語でだめなら2語に分解する
- Point 3 別のことばに言いかえる（上位語、下位語、同義語、関連語、表記のゆれ）

検索の際は、これらのことを念頭に置きながら、いろいろなことばを試してみてください。
検索用に統制された用語（件名やシソーラス）を活用する方法もあります。

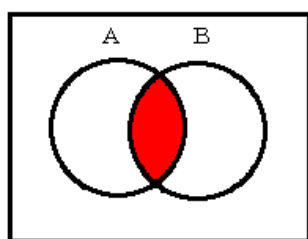
論理演算を使うと効率的な検索ができる

複数のキーワードを使いたいときは、論理演算を使って検索式を立てます。検索の目的によって「AND 検索」「OR 検索」「NOT 検索」を使い分けると、効率的な検索ができます。

余計なものが多い時は...

AND 検索

入力したキーワードを
全て含むものを抽出

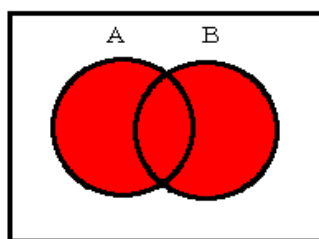


A AND B

検索漏れのおそれがある時は...

OR 検索

入力したキーワードのうち
少なくともどちらか一方を含む
ものを抽出

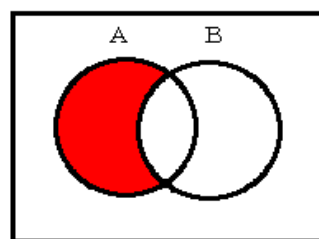


A OR B

明らかに余計なものがあれば...

NOT 検索

入力したキーワードの
一方を含み一方を含まないもの
を抽出



A NOT B

さらに詳細な検索をするには、論理演算子(AND、OR、NOT)を複数使って組み合わせます。

A NOT B AND C OR D

()を使って論理演算の優先順位をコントロールできるデータベースもあります。

(A NOT B) AND (C OR D)

ことばの一部分だけで検索する方法もある

文字の代わりに、ワイルドカードと呼ばれる記号(*, ?, \$ など)を使えば、ことばの一部分が共通するものが全て検索できます(これを部分一致検索やトランケーションと言います)。

前方一致検索は英語の単数形・複数形や派生語を同時に検索したいときにも効果的です。



検索に使用する記号はいろいろあるので注意

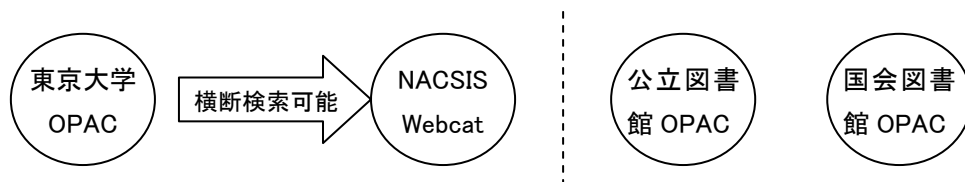
論理演算やトランケーションは便利なテクニックですが、データベースによって使用する記号や使用可能なトランケーションの種類が異なります。各データベースの「ヘルプ」を参照して、どの記号を使えばよいのかを確認してから検索してください。

	OPAC	FELIX	Web of Science
AND 検索	スペースで区切る (記号を使う場合は、 A * B)	A&B スペースで区切るだけではフレーズ検索になるので注意。	A and B スペースで区切るだけではフレーズ検索になるので注意。
OR 検索	A + B	A B	A or B
NOT 検索	A - B	A!B	A not B
前方一致	medic*	記号不要	medic*
中間一致		記号不要	
後方一致		記号不要	
語中変化			wom*n

この本を読みたい → どこにあるかを調べる

3. 図書の所在を調べる

読みたい本がどこにあるかを調べるには、まず、東京大学OPACを検索します。
東京大学で所蔵していない場合には、NACSIS Webcat (他大学の所蔵情報) や、近隣の公立図書館、国立国会図書館の OPAC を調べます。



(演習1)

中原淳, 西森年寿編著. eラーニング・マネジメント : 大学の挑戦. オーム社, 2003, 224p.

(演習2)

小原芳明編. ICT を活用した大学授業. 玉川大学出版部, 2002, 158p.

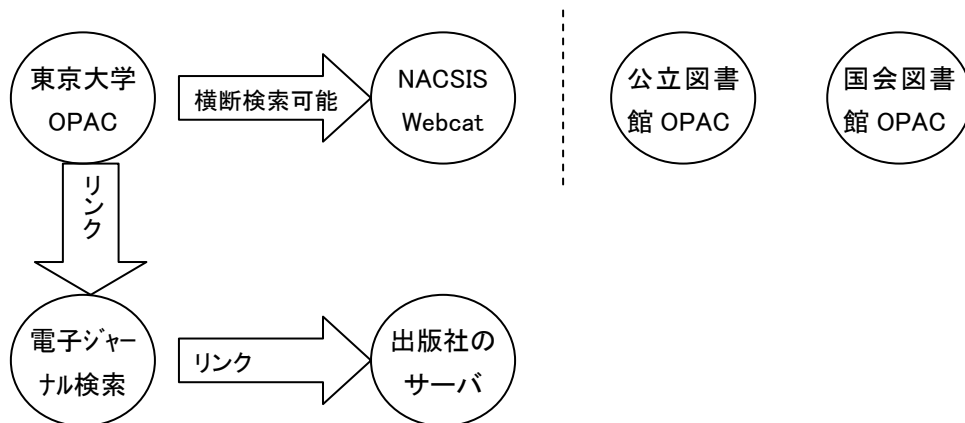
演習のポイント

- 東京大学の中のどこで所蔵しているか？
- 請求記号は？
- 貸出中の場合は？
- 目次情報を見るには？ (→Book Contents とリンク)
- 同じシリーズの本を見るには？
- 東京大学で所蔵していない場合は？
- Web リクエストサービスについて (<http://www.lib.isics.u-tokyo.ac.jp/web.html>)

この論文を読みたい → この論文が掲載されている雑誌がどこにあるかを調べる

4. 雑誌の所在を調べる

読みたい論文が掲載されている雑誌がどこにあるかを調べるには、まず、東京大学OPACを検索します。検索の仕方や、東京大学で所蔵していない場合は、図書館の所在調査の時と同じです。もし、その雑誌が電子ジャーナルで見られるようになっていれば、東京大学 OPAC の検索結果からリンクをたどっていくか、あるいは「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」からアクセスすることで、パソコンの画面上で論文を読むことができます。



(演習1)

吉田文. 対面教育と比較されるオンライン教育の評価. カレッジマネジメント. 19(5), 2001, 58-62.

(演習2)

Lupo D, Erlich Z. Computer literacy and applications via distance e-learning. Computers & Education. 36(4), 2001, 333-345.

演習のポイント

- 東京大学 OPAC で雑誌だけに限定して検索するには？
- 論文のタイトルや論文の著者名ではなく、必ず雑誌名で検索！
- 雑誌名が省略形しかわからない場合は？
- 誌名変遷(雑誌名の変更)の見方は？
- 所蔵巻号は？(巻、号、通号に注意)
- 電子ジャーナルを見るには？(2通りの方法)

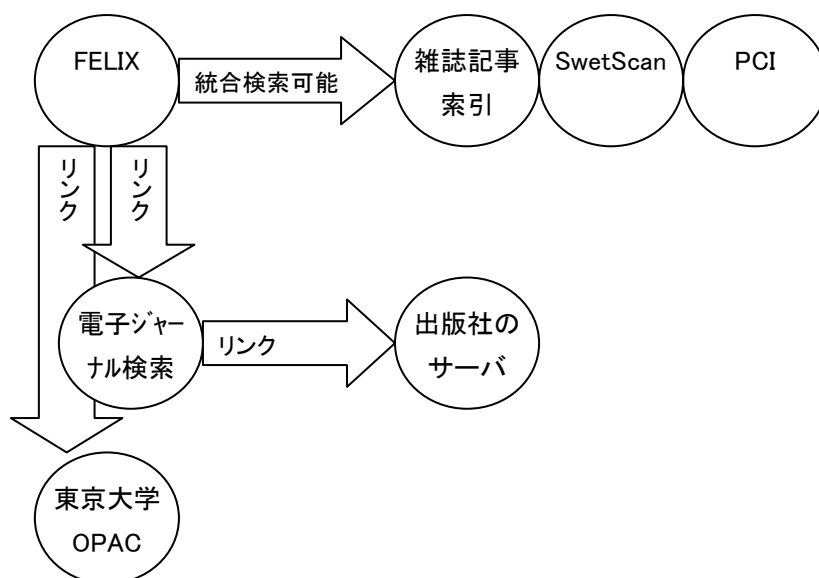
どんな論文があるかを探す → その論文の掲載雑誌がどこにあるかを調べる

5. あるテーマについての論文を探す (FELIX)

どんな論文があるかを探すためのデータベースはたくさんありますが、ここでは、国内外の主要な学術雑誌の目次情報を検索できる「FELIX」を使った演習をします。

FELIX では3つのデータベースを統合検索あるいは個別に検索できます。

検索をして読みたい論文が決まったら、FELIX の検索結果詳細画面から、東京大学 OPAC あるいは「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」へのリンクによって、その論文の掲載雑誌がどこにあるか、あるいは電子ジャーナルで見られるかがわかります。



(演習1)

幼児とコンピュータメディア環境に関する日本語で書かれた論文が読みたい。

(演習2)

大学におけるeラーニングについて英語で書かれた論文が読みたい。

演習のポイント

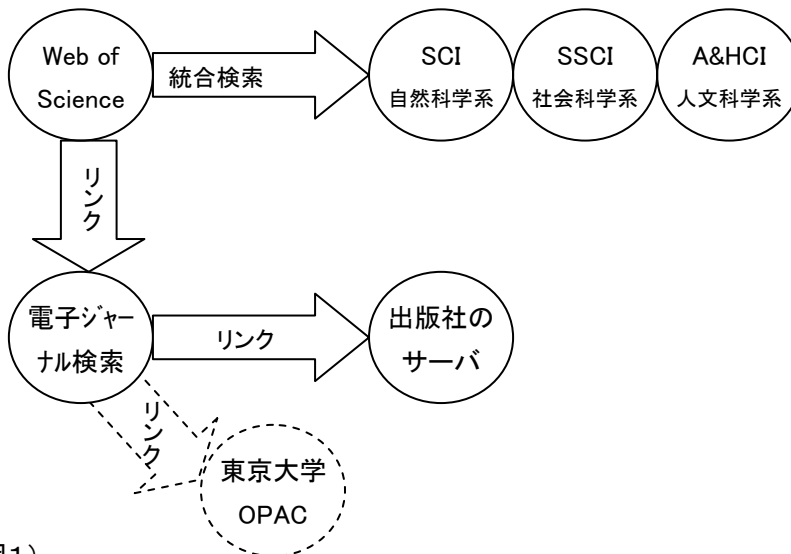
- データベースを選択する
- 論理演算を使って検索する
- 刊行年を指定するには？
- 検索結果からさらに絞り込むには？
- 検索結果を並べ替えるには？
- 検索結果を保存するには？
- 検索して見つけた論文を読むには？

どんな論文があるかを探す → その論文の掲載雑誌がどこにあるかを調べる

6. あるテーマについての論文を探す (Web of Science)

Web of Science を使うと、あるテーマについてどんな論文があるかを探せるだけでなく、「この論文はどんな論文を引用しているか」「どんな論文に引用されているか」「他のいくつかの論文に引用されているか」という情報がわかり、文献検索の幅が広がります。

読みたい論文が決まったら、Web of Science の検索結果詳細画面(Full Record 画面)から、「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」へのリンクによって、その論文が電子ジャーナルで見られるかがわかります。



(演習1)

大学におけるeラーニングについて書かれた論文のうち、他の論文に多く引用されている論文を読みたい。

(演習2) 演習1で見つけた論文と引用関係のある論文を読みたい。

- ・この論文が引用している論文 (→Cited References)
- ・この論文が引用している論文と同じ論文を引用して書かれた論文 (→Related Records)
- ・この論文を引用して書かれた論文 (→Times Cited)

演習のポイント

- General Search(通常の検索)の入力画面の使い方
- 検索結果一覧(Search Result-Summary)の並べ替え(Sort)や、分析(Analyze)をするには?
- 必要な論文にマークを付けてリスト(Marked List)にし、保存や出力をするには?
- 引用関係のある論文を見るには?(Cited References、Related Records、Times Cited)
- 見つけた論文を電子ジャーナルで読むには?
- アラート(Citation Alert)を活用するには?
- 検索履歴(Search History)を保存するには?(Save History)

使い方がわからなくなったときは・・・

7. カスタマーサポート

それぞれのデータベースには必ず「ヘルプ」の画面がありますので、検索方法を確認したいときは「ヘルプ」を参照してください。

また、以下のページも必要に応じてご覧いただき、ご活用ください。これらはすべて、GACoS (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/>) のページからも、ご覧いただけます。

- データベースマニュアル

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/manual/>



データベース定期講習会のテキスト

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/manual/index.html#2>

- データベース定期講習会のお知らせ

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

- ネットでアカデミック on Web

情報収集方法の電子版テキスト

<http://literacy.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/wack/>

- オンラインチュートリアル

文献調査の方法を学べる e-learning 教材

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/tutorial/>